

そろり種まき、実らせ収穫・PR

～タスクフォースと広報展開～

令和3年10月25日
企業局

1. タスクフォースの取組と成果

○タスクフォースの取組（創意工夫の源泉）

（単位：千円）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
主な取組	<ul style="list-style-type: none">・維持管理直営化・企業債借入条件の変更・電力ピークカット契約・ポンプ設備の運用変更・浄水発生土の利活用	<ul style="list-style-type: none">・維持管理直営化・電力ピークカット契約・電力の長期契約・低圧電力の契約見直し・浄水発生土の有価販売	<ul style="list-style-type: none">・維持管理直営化・維持管理業務の一括発注・電力ピークカット、長期、デマンドレスポンス契約・低圧電力の契約見直し	<ul style="list-style-type: none">・維持管理契約の見直し・電力ピークカット、長期、デマンドレスポンス契約・監視装置のライフサイクルコストの削減	<ul style="list-style-type: none">・購入対象債権の拡大による運用益増大・水質検査手法の見直し・高圧電力の長期一括契約・浄水発生土処理業務の発注方式見直し	<ul style="list-style-type: none">・購入対象債権の拡大による運用益増大・ビルドメンテナンス契約・浄水場設備設計の直営化・高圧電力の長期一括契約・デマンドレスポンス契約拡大・浄水発生土処理業務の発注方式見直し
収支改善額	106,704	100,049	73,110	127,529	239,934	312,223

毎年取組が拡大し飛躍的な成果！

R3も着々と！

※工水・水道事業関係

H29
73百万円

H30
127百万円

R1
239百万円

R2
312百万円

R3～
毎年4億円へ！

2. 取組成果の広報展開①

○メディアへのきっかけづくりはトップ広報

- ・ **広報は事業の実施と同じ位大切**であることから、**トップがメディアのキーパーソンにダイレクトにアプローチ**し取材誘致
- ・ 次長、参事、各課長が「広報官」となり取材に対応

パブリシティ実績

- R 2 静岡新聞、読売新聞などに計34回掲載 **<広告費換算888万円>**
- R 3 静岡新聞、日経新聞などに計19回掲載 **<広告費換算709万円>**

※ R 3は4月～10月まで

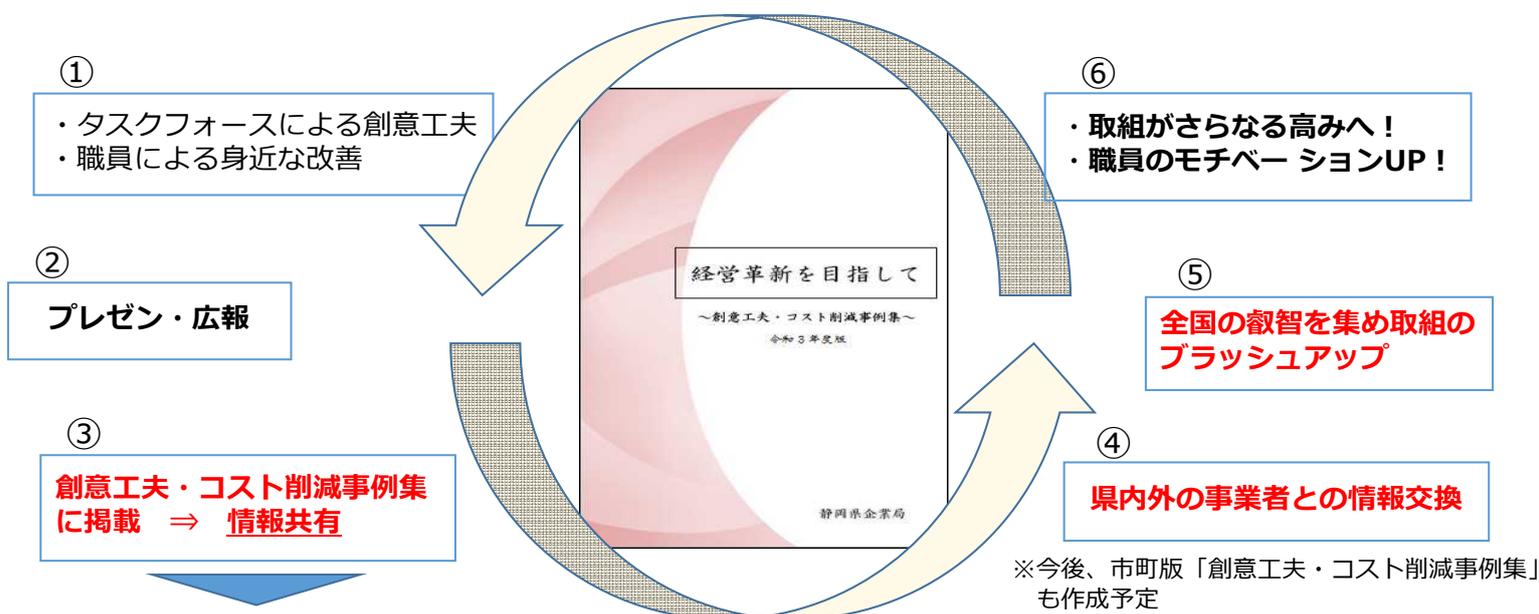
周囲の反応

- ✓ 「新工法の採用や新たな契約方式の導入など、民間企業と比べてもレベルの高い取組である。」（企業局経営評価委員会）
- ✓ 「企業的な観点で努力していることが分かる。」（産業委員会）
- ✓ 「徹底した企業努力によって大きな成果が出ている。」（定期監査）
- ✓ 東駿河湾工水、富士川工水の料金改定（案）に対し、東駿河湾工水ユーザーの95%、富士川工水ユーザーの100%が同意（初回説明会后）

3. 取組成果の広報展開②

○経営革新の好循環のシステム化

- ・ タスクフォースの取組を「事例集」にまとめ局内で情報共有（紙に書く）
- ・ さらに、県内外に発信し、取組をブラッシュアップ



創意工夫・コスト削減事例集（R 3年版） 29件の取組を掲載
中長期では 約1,011億円のコスト削減、収益確保

4. 羽ばたく創意工夫

掘削工事を省き経費削減

～地下水の判別方法を確立し、100万円の漏水調査費削減～

現状

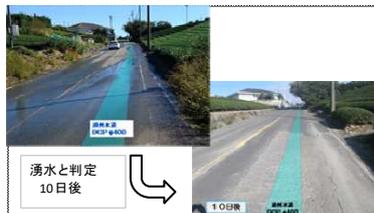
- ・地表にしみ出す水の漏水元の特定には、掘削調査が必要
- ・掘削調査には100万円の費用のほか、職員待機や交通規制等も必要
- ・掘削調査の結果、企業局の水ではないことが判明することも

実践

- 水質管理センター技術者が、水質検査を応用した漏水判定手法を確立
- ・500回以上の分析結果より、工水・水道・他のイオンの傾向を把握
- ・土壌の特性も鑑み、精度の高い漏水元判定の手法を確立
- 日水協の全国大会で、事例発表したところ反響が大！
- 新たな判定指標物質を見い出し、給水先である市水道との判別も可能に！**

ポイント！

- ◎土壌の影響を受けない成分を特定
- ◎漏水元判定の精度向上
- ◎試掘が不要



効果

- 5年間で17箇所の掘削が不要、1,700万円の工事費削減！
- ・交通渋滞・騒音振動の回避、廃棄物の抑制等、社会的影響も低減
- ・汎用性を高めたことにより、**県内市町と調査受委託の協定を締結** (R3.3湖西市、R3.4森町と締結、今後さらに拡大予定)

○創意工夫「**地下水の判別方法の確立**により掘削工事を省き経費削減」が、日本水道協会主催の**2021水道イノベーション賞特別賞を受賞！**

※全国1,334の水道事業者の中から大賞1件、特別賞2件

身近な取組が全国へ大きく羽ばたく！

出典：創意工夫・コスト削減事例集より

5. 多様な広報展開① (大学生向け講義)

企業局の事業を若者（静岡大学人文社会科学部の学生）にもPR
～「**まちづくり**」と**工業団地の整備**」をテーマに行政学講座として講義～



アンケート結果

講義及び企業局の事業について
9割近くの学生が「理解できた」と回答

学生の声

- ・県庁の仕事の多くは、決められた手順通りに進めていただけかと思っていたが、企業の性質をとりこむことで、これほど**柔軟な業務内容を持っていたことは驚きであった**。
- ・県外出身者のため、静岡県のことを詳しく知らなかったが、製造業が強く、一人当たりの県民所得も国内トップレベルであることがわかり、**静岡県の凄さを実感した**。

静岡産業大学からも講義の依頼あり！

6. 多様な広報展開②（造成現場から）

富士大淵工業団地の現場見学会

■ 多方面への情報発信～地域から愛される工業団地を目指す～



富士特別支援学校による現場見学会（R3.10.18）

【歓びの声】

生徒さん

「ぼくは、ショベルカーに乗ってタンケンしたり、いっぱい乗り物を見てうれしかった。」

先生から

「生徒に貴重な体験をさせることができ感謝。また、工事現場の理解が深まった。」

【取材メディア】

- ・ NHK（R3.10.18放映）
- ・ 読売新聞（今後掲載）
- ・ 静岡新聞（R3.10.20掲載）
- ・ 建通新聞（今後掲載）
- ・ 富士ニュース（今後掲載）

7. 今後の展開

○新たな課題への対応

・ 脱炭素に向けた取組

施設の統合、更なるダウンサイジング、省エネ機器導入

➡ 2030年にCO2を50%削減へ

・ 気候変動による影響への対応

浄水発生土の有価販売等（毎年1億円超のコストカットへ）

・ アフターコロナを見据えた展開

D Xの推進による浄水場の効率運用、

高付加価値型の工業用地の供給 ➡ 豊かなくらしのデザイン

・ 効率的な資金運用

多様な広報展開により事業をブラッシュアップ

チーム企業局で新たな価値づくりに邁進します！